

〔浴室・トイレ・洗面所用〕

三菱ダクト用換気扇 (24時間換気機能付 (24時間換気3段階切替タイプ))

仕様	一部屋用	二部屋用	二・三部屋用
形名	VD-10ZLC ₁₀ VD-13ZLC ₁₀ VD-15ZLC ₁₀ VD-15ZLC ₁₀ -T	VD-15ZFLC ₁₀	VD-18ZFLC ₁₀

据付説明書

販売店・工事店様用

据付けを始める前にこの説明書をよくお読みになり、正しく安全に据付けてください。

別冊の「取扱説明書」はお客様用です。必ずお渡しく下さい。

■据付け、壁穴工事はお買上げの販売店・工事店様が実施してください。

■電気工事は電気工事の方が実施してください。

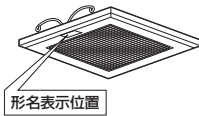
■この製品は、浴室・トイレ・洗面所・居間・事務所・店舗の天井に据付けてください。それ以外の用途には使用しないでください。故障の原因となります。

■形名によって据付方法が異なりますので、あらかじめご使用の形名をご確認ください。

■この製品には市販の埋込スイッチ、またはシステム部材のコントロールスイッチが必要です。その他屋外フードなどは三菱換気送風機総合カタログにより別途ご用意ください。

■当社製以外の電子式スイッチ (半導体制御による速調スイッチ・タイマーなど) やホタルスイッチをご使用の場合は組合せ上、不具合の発生するおそれがありますので、ご使用の際はあらかじめご確認ください。

■接続ダクトは外形寸法図に示すダクト径の塩化ビニル管・アルミフレキシブルダクト・銅板管のいずれかをご用意ください。



1. 安全のために必ず守ること

誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

	警告	誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などに結びつく可能性のあるもの		注意	誤った取扱いをしたときに、軽傷または家屋・家財などの物的損害に結びつくもの
--	-----------	-----------------------------------	--	-----------	---------------------------------------

本文中や本体に使われている図記号の意味は次のとおりです。

	禁止		水ぬれ禁止		分解禁止		感電注意
	指示に従う		アース確認				

警告	
	<p>●内釜式風呂を据付けた浴室には据付けない 排気ガスが浴室内に逆流し、一酸化炭素中毒をおこす原因。</p> <p>●浴室内にコントロールスイッチを設けない 感電の原因。</p> <p>●ガス漏れに気付いたときは、換気扇のスイッチの入・切をしない 爆発・引火の原因。</p>
	<p>●製品に直接水やお湯、かび取りなどをかけない ショート・感電の原因。</p>
	<p>●改造や工具を必要とする分解はしない 火災・感電・けがの原因。 分解・修理は修理技術者のいる販売店または当社のお客さま相談窓口にご相談ください。</p>
	<p>●交流 100V を使用する 直流や交流 100V 以外を使用すると感電の原因。</p> <p>●メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう据付ける 漏電した場合発火の原因。</p>
	<p>●電気工事の際、裸線に接触しない 感電の原因。</p>
	<p>●湿気の多い場所ではアースを確実に取付ける 故障や漏電のときに感電の原因。</p>

注意	
	<p>●直接炎のあたるおそれのある場所や有機溶剤・可燃性ガスのある場所には据付けない。 火災の原因。</p> <p>●台所・厨房・飲食店など、熱気や油煙が発生する場所には据付けない 本体・部品の落下によるけがの原因。</p> <p>●中性洗剤以外の洗剤・殺菌剤・消毒剤を頻繁に使用する場所には据付けない 本体・部品の落下によるけがの原因。</p>
	<p>●据付けの際は必ず手袋を着用する けがの原因。</p> <p>●本体の据付けは十分強度のあるところを選んで確実にを行う 落下によりけがの原因。</p> <p>●部品の据付けは確実にを行う 落下によりけがの原因。</p> <p>●電気工事は電気設備技術基準や内線規程に従って安全・確実にを行う 接続不良や誤った電気工事は感電・火災の原因。</p>

2. 据付け前のお願い

注意

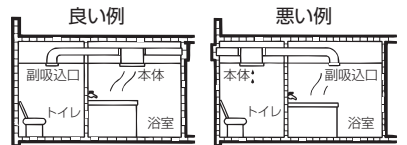
- 台所・厨房・飲食店など、熱気や油煙が発生する場所には据付けない
本体・部品の落下によるけがの原因。
- 中性洗剤以外の洗剤・殺菌剤・消毒剤を頻繁に使用する場所には据付けない
本体・部品の落下によるけがの原因。

据付け

- プラスチックボディタイプダクト用換気扇およびダクト用システム部材の使用については、地区により異なった規制を受ける場合がありますので、あらかじめ所轄の官公庁 (特に消防署) にご相談ください。
- 高温 (40℃以上) になるところには据付けないでください。早期故障の原因となります。
- 温泉には据付けないでください。腐食 (落下)、漏電 (感電)、早期故障の原因となります。
- 業務用 24 時間風呂のような常時湿気のある場所では寿命が短くなる場合があります。
- 浴室などの湿気の多いところに据付ける場合は漏電ブレーカーを取付けてください。
- 効果的な換気を行うために給気口を設けてください。
- 傾斜天井には据付けないでください。シャッター開閉不良、振動、異常音の原因となります。
- 製品上部を断熱材などで覆わないでください。早期故障の原因となります。
- グリルを取りはずしやすくするためグリル側面と部屋の壁面を 150 mm 以上離し、製品を据付けてください。

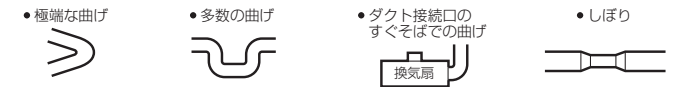
据付場所

- 浴室など湿気の多い場所では、グリルから水滴が落ちて不快感にならない場所に据付けてください。
- 浴室と他の部屋で使用する場合は本体を必ず浴室に据付けてください。本体から水滴が落ちることがあります。(VD-15ZFLC₁₀、VD-18ZFLC₁₀)



天井・ダクト工事

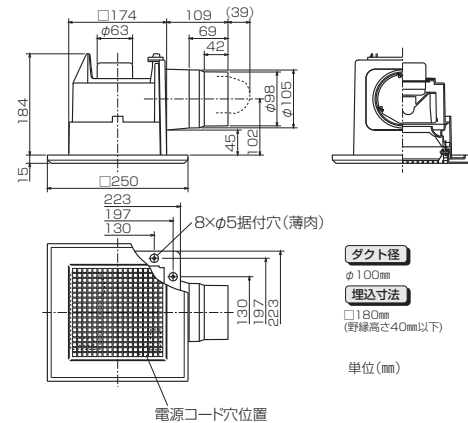
- 天井材は、振動・共鳴音防止のため強度のあるものをご使用ください。
- 排気ダクトは雨水の浸入やドレン水の逆流を防ぐため屋外に向けて 1/100 以上の下り勾配をつけてください。
- 次のようなダクト工事はしないでください。風量低下や異常音発生の原因となります。



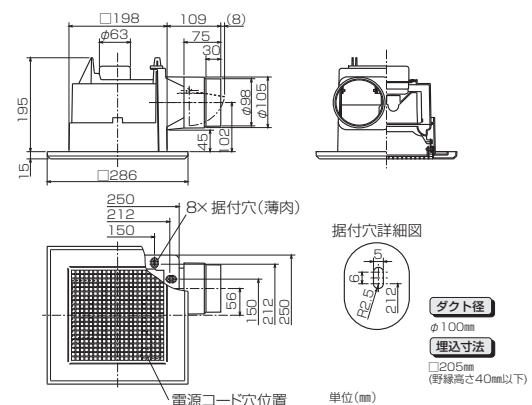
- 天吊金具を使用する場合、製品の着脱には天井裏での作業が必要です。天井裏での作業ができるよう製品の近くに点検口を設けてください。点検口がない場合、製品取替えなどで天井などを壊す費用は、お客様のご負担となります。

3. 外形寸法図

■VD-10ZLC₁₀



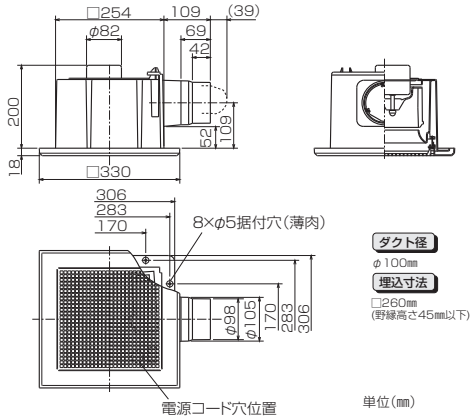
■VD-13ZLC₁₀



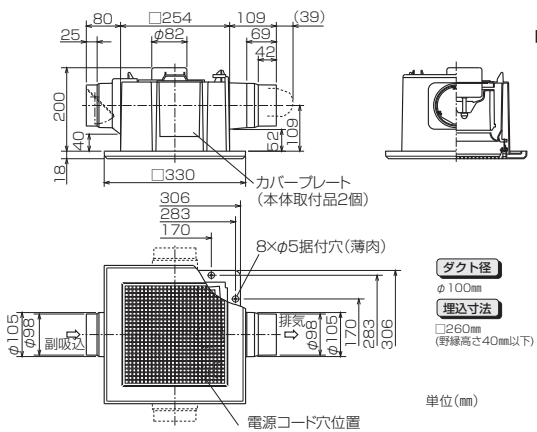
4. 据付方法

※天吊金具を使用される場合は「天吊金具を使用する場合」をご覧ください。

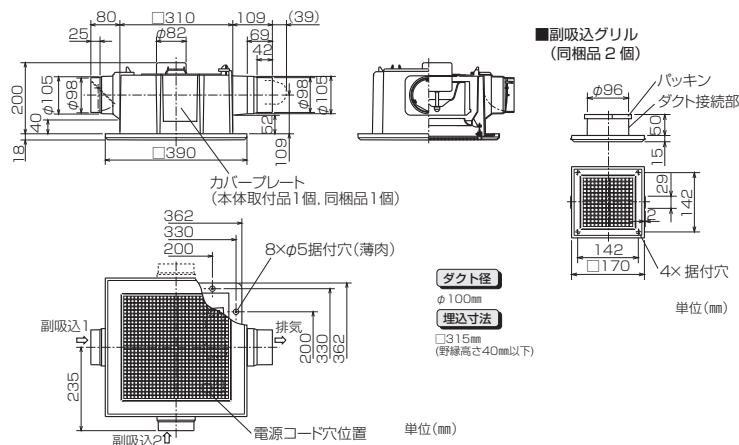
■VD-15ZLC10、VD-15ZLC10-T



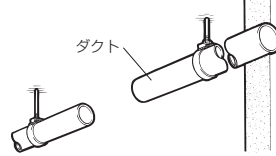
■VD-15ZFLC10



■VD-18ZFLC10



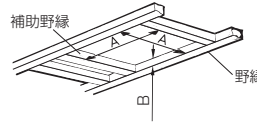
1 ダクト工事



壁排気穴から本体のダクト接続口および副吸込口位置 (VD-15ZFLC10、VD-18ZFLC10) までダクト配管する。

- ダクトはダクト接続口に力が加わらないよう天井より吊る。
(力が加わるとシャッター開閉不良・風漏れの原因となります)

2 野縁組立



内寸がA寸法、高さがB寸法以下になるよう天井の野縁と補助野縁で据付枠を組む。

メモ

- 野縁高さをB寸法以上で据付けると、シャッター開閉不良、異常音の原因となります。

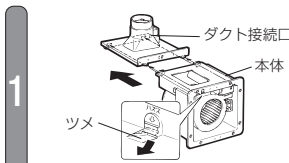
お願い

- 天井がたわまないように、十分強度のある野縁に据付けてください。
- 野縁を組立てる際は、据付穴のビスと据付穴の詳細図をご確認ください。A寸法が大きいと、木ネジが垂直に打てなくなり、野縁の割れによる固定不具合が発生します。

形名	A寸法	B寸法
VD-10ZLC10	180	40
VD-13ZLC10	205	40
VD-15ZLC10	260	45
VD-15ZFLC10	260	40
VD-18ZFLC10	315	40

※VD-10ZLC10、VD-13ZLC10、VD-15ZLC10、VD-15ZFLC10-Tは **3** ダクト接続 (一部屋用の場合) 、VD-15ZFLC10、VD-18ZFLC10は **3** ダクト接続 (二部屋または二・三部屋用の場合) へつづく

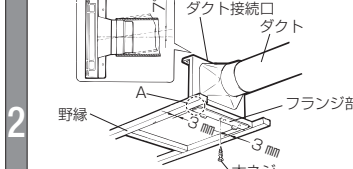
3 ダクト接続 (一部屋用の場合)



ダクト接続口の取りはずし

- 本体内側のツメを矢印の方向に押さえながらダクト接続口を図のように本体から取りはずす。

3 ダクト接続 (一部屋用の場合)



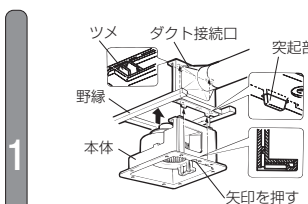
ダクト接続口の固定

- (1) ダクト接続口をダクトに差し込む。
 - (2) ダクト接続口のフランジ部を野縁に密着させて付属の木ネジ1本で野縁の中央に固定する。
(両サイドに3mmほどのすき間があきます)
- 塩化ビニル管と接続する場合、ダクト方向の微調整が可能です。(全方向7°)

お願い

- シャッター開閉に支障のないようダクト接続口に無理な力が加わらないように注意してください。(力が加わるとシャッター開閉不良、風漏れの原因となります)

4 本体の据付け (一部屋用の場合)



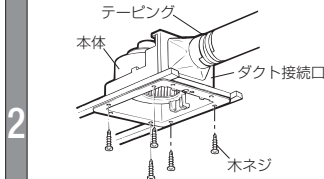
本体の差し込み

- (1) 本体を野縁にそって差し込む。
 - (2) ダクト接続口とはめ込みは、本体上部のツメをダクト接続口の角穴に、下部はダクト接続口の突起部を本体下部の角穴にはめ込む。
- 本体フランジ部にある矢印付近を押すと「パチン」と音がしてはめ込まれます。

お願い

- 羽根を持って本体の据付けを行わないでください。
(本体に羽根があたり、異常音の発生や羽根破損の原因となります)

4 本体の据付け (一部屋用の場合)



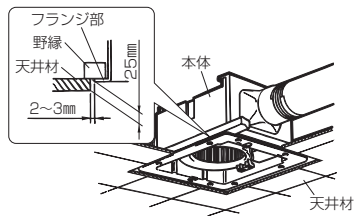
本体の固定

- (1) 本体がダクト接続口に密着していることを確認してから、付属の木ネジ5本で本体をすき間のないようにしっかり固定する。
(すき間があると風漏れの原因となります)
 - 据付穴は風漏れ防止のため薄肉がついていますので、木ネジ締め付けの際、木ネジ先端で薄肉部を突き破ってください。
- (2) 風漏れのないよう市販のアルミテープなどでダクト接続部をテーピングする。

付属部品

付属部品	天吊金具	木ネジ (ステンレス製 (本体固定用))	木ネジ (副吸込ダグリル 取付種の固定用)	副吸込ダグリル	風量調節板 (副吸込側)	カバー プレート
形名						
VD-10ZLC10 VD-13ZLC10 VD-15ZLC10	-	6本	-	-	-	-
VD-15ZLC10-T	2個(P-04TK)	7本	4本	1個	-	-
VD-15ZFLC10	-	11本	8本	2個	2個	1個

7 天井材を張る



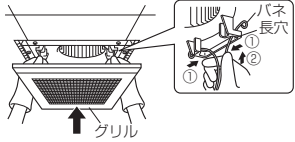
- (1) 天井材を張る。
- (2) 本体のフランジ部分と天井材は必ず2~3mmのすき間があくよう角穴をあける。

お願い

- 天井材の厚さは25mm以下で据付けてください。(グリルが天井材に密着しない場合があります)

8 グリルの据付け

本体側の場合



- (1) グリルのバネを指先で縮め長穴に差し込む。バネは本体側へ片側ずつ差し込むとスムーズに据付けられます。
- (2) 手を放し軽くグリルを押し上げ天井材に密着させる。

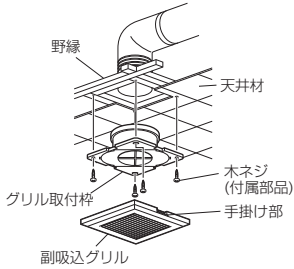
副吸込側の場合

…(VD-15ZFLC10、VD-18ZFLC10)

- (1) 内寸120角となるように野縁を組む。
- (2) 副吸込グリルとグリル取付枠に分ける。

お願い

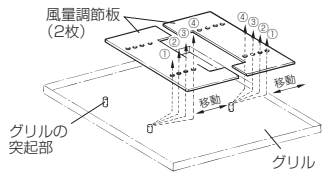
- フレキシブルダクトに差し込む場合は必ずテーピングしてください。(風漏れ防止)
- (3) 付属の木ネジ4本でグリル取付枠を天井材に固定する。
 - (4) 副吸込グリルをグリル取付枠に合わせて上に押し上げ据付ける。



本体側と副吸込側の風量調節のしかた (VD-15ZFLC10、VD-18ZFLC10)

本体側の場合

- 本体グリルの風量調節板を移動させることにより本体と副吸込側の風量割合を変更することができます。



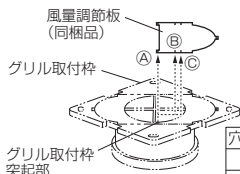
穴位置	VD-15ZFLC10 本体風量：副吸込風量	VD-18ZFLC10 副吸込風量(全開時) 1か所に対する本体風量割合
①	約 1.5 : 1 (工場出荷時)	約 1.5 倍 (工場出荷時)
②	約 2 : 1	約 2 倍
③	約 2.5 : 1	約 2.5 倍
④	約 3 : 1	-

- 風量調節板の固定用テープは剥がさずに使用してください。

- 風量調節板を取りはずしてしまいますと、副吸込側から吸い込まなくなりますので取りはずさないでください。

副吸込側の場合 …(VD-18ZFLC10)

- 工場出荷時、本体と2か所の副吸込風量割合は約 1.5 : 1 : 1 となっています。
- 風量調節板を使用することにより副吸込風量を全開時(風量調節板なし)の約 75%・50%・30%に調節することができます。



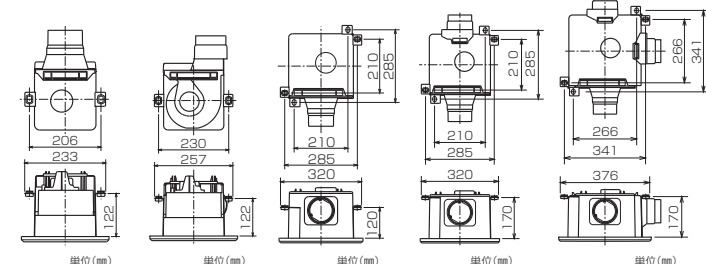
穴位置	副吸込風量割合
(A)	約75%
(B)	約50%
(C)	約30%

天吊金具を使用する場合

野縁に強度がない場合は天吊金具を使用して据付ける方法も兼用してください。

下図の位置にあらかじめ市販の吊りボルト(M8)を埋め込む。

- VD-10ZLC10 天吊金具P-02TK (別売システム部材) 据付位置 (2点吊り)
- VD-13ZLC10 天吊金具P-02TK (別売システム部材) 据付位置 (2点吊り)
- VD-15ZLC10、VD-15ZLC10-T 天吊金具P-04TK (別売システム部材) 据付位置 (2点吊り)
- VD-15ZFLC10 天吊金具P-06TK (別売システム部材) 据付位置 (2点吊り)
- VD-18ZFLC10 天吊金具P-06TK (別売システム部材) 据付位置 (2点吊り)



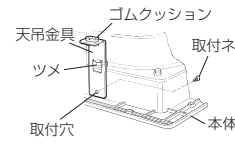
※VD-15ZLC10-Tの場合
天吊金具は同梱されています。

- 本体付近に必ず点検口を設けてください。本体着脱の際、天井をはがさないで据付けられない場合があります。

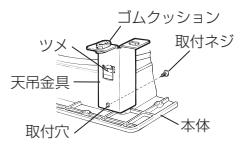
天吊金具(別売システム部材)のツメを本体に引っ掛けて、内側から取付ネジで固定する。

- 本体側の取付穴は風漏れ防止のため薄肉がついていますが、ネジ締め付けの前に薄肉部を貫通させてください。

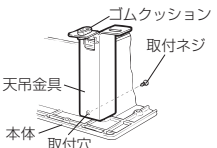
■P-02TKの場合



■P-04TKの場合



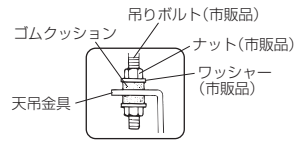
■P-06TKの場合



お願い

- P-04TK、P-06TKの場合、必ずダクト接続口を先に本体に据付けてから天吊金具を据付けてください。逆の場合はダクト接続口が据付けられません。

3



本体が水平になるように天吊金具を吊りボルトに据付け、ナットがゆるまないようワッシャー・ナットにて確実に固定する。

天井材の下に本体フランジを据付ける場合

お願い

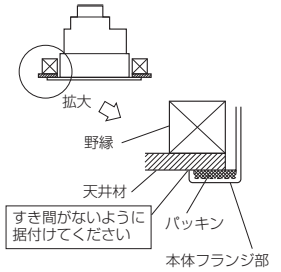
本体の据付けは天井材と本体フランジ部との間にすき間がないように据付けてください。(天井材と本体フランジ部が密着しないと天井面とグリルの間にすき間が生じる場合があります)

■パッキン材を使用する場合

- 天井材と本体フランジ部の間にパッキン材を使用する場合は薄いもの・軟らかいものを使用し、据付状態ですき間がないようにしてください。

■補強板を使用する場合

- ユニットバスに設置する場合などで、天井面と本体フランジ部との間に補強板を入れる場合には、厚さが1mm以下のものをご使用ください。



5. 試運転

- コントロールスイッチがある場合は、切/入、強/弱切替えが正しくできるか確認してください。
- 異常な音や振動がないか確認してください。

6. 修理を依頼する前に

■試運転時に、次のような症状があれば点検してください。

こんなとき	原因	点検・処置
電源スイッチを入れても羽根が回転しない 強/弱どちらか動かない	分電盤のブレーカーが「切」になっている 正しく結線されていない	ブレーカーを「入」にする 結線を確認する(スイッチ部/電源線接続部) ※換気扇にAC100Vが供給されていることを確認する ※「共通」への結線が正しく接続されていることを確認する ※ 電気工事 の電圧チェック表を確認する
運転中に異常な音や振動がする	本体・グリルが確実に据付けられていない 羽根・グリルに異物が付着している 本体の固定(天吊金具・ネジ止め)が弱い 換気風路の抵抗が大きい(ガラリ・アンダーカット) 換気風路の抵抗が大きい(ダクト配管) 換気風路の抵抗が大きい(屋外フード) 羽根が本体に接触している	正しく据付け直す 異物を取り除く 本体の固定を確認する ガラリ・アンダーカットを開けて給気する ダクトのつぶれ、急な曲がりを修正する 屋外フードのほこりを清掃する(特にリフォーム時) 羽根をモーター方向に押し込む (VD-10ZLC10、VD-13ZLC10)
副吸込グリル側から吸い込まない	本体グリルの風量調節板が取付けられていない	本体グリルに風量調節板を取付ける (VD-15ZFLC10、VD-18ZFLC10)

※ティッシュペーパー1枚(2枚1組のティッシュは1枚に分ける)を副吸込グリルに近づけ吸くかどうかで簡易的に副吸込グリルの吸込みを確認できます。
※確認の際は強運転で行ってください。
※必要に応じて
7 グリルの据付け 本体側と副吸込側の風量調節のしかた をもって、風量調節をしてください。

